

公衆衛生看護管理論	3 年・後期	2 単位	准教授 島田 昇 他
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33310913

1. 授業のねらい・概要

地域に顕在する、あるいは潜在する健康問題を把握、地域診断の実際を通して、地域住民のニーズの把握方法を学ぶ。また、地域看護行政における運営管理能力や、保健福祉計画の策定、予算化、実施・評価のプロセスを学び、その流れにおける保健師の役割を理解する。健康危機時の管理能力、ケアシステムづくりも併せて学ぶ。

2. 学修の到達目標

1. 地域診断の実際を通して、地域の特性や地域住民のニーズの把握方法を学ぶ。
2. 保健福祉事業計画の策定と予算化のしくみ、および実施・評価について理解する。
3. 地域看護活動における管理的機能と保健師の役割を理解する。

3. 授業の進め方

下記の計画にそって授業を進める。自己学習しやすいように、基本的にテキストに基づいた授業を行うが、社会問題等を随時取り上げ、広く施策化・実施・評価について学びを深める。

4. 授業計画（演習）

1. 公衆衛生看護管理論とは （島田昇）	9. 地域診断（地域特性をまとめる） （島田）
2. 地域診断：地域特性の把握 （島田）	10. 地域診断（健康課題の抽出） （島田）
3. 地域集団の特性の把握 （島田）	11. 地域診断（健康課題への対応策） （島田）
4. 地域診断の実際 ① （島田）	12. 健康危機管理の特色 （島田）
5. 地域診断の実際 ② （島田）	13. 健康危機管理の基本 （島田）
6. 地域診断（地域の情報収集） （島田）	14. 地域包括ケアシステム構築 ① （石原美由紀）
7. 地域診断（地区踏査） （島田）	15. 地域包括ケアシステムの構築 ② （石原）
8. 地域診断（地域のアセスメント） （島田）	

5. 成績評価の方法・基準

定期試験（受験資格は3分の2以上の出席した者）70％，課題レポート30％で総合的に評価する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：荒賀直子，後閑容子（2017）公衆衛生看護学.jp 第4版 データ更新版．インターメディカ

7. 準備学習に必要な時間，又はそれに準じる程度の具体的な内容

シラバスの授業計画の範囲内について、キスト内容の熟読し、予習（60分）程度を行うこと。
受講後は講義内容をノートにまとめる復習（60分）を実施すること。

8. 受講上の留意事項（先修条件がある場合は8.に記入する）

指定されたテキストの範囲を事前に読んでから授業に臨むこと。また、国家の施策策定、財政、予算などの広い知識が役立つ。日頃から新聞を読みニュースに触れて、政治・経済について関心を高めること。また、図書館を積極的に利用し文献や専門雑誌に目を通す習慣をつけること。

9. 課題に対するフィードバックの方法

試験実施の際に解答などを説明する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり、修得できない場合進級不可となる。

11. 実務経験のある教員等による授業科目

行政機関委託機関および、医療機関での保健師としての勤務経験を活かして、講義・演習を行います。